

双極症のためのオンライン心理教育

発表形式：シンポジウム

トピック：アドボカシーおよび当事者団体

提出者：木野内南（名古屋大学大学院医学系研究科）

司会：松尾幸治 医師（埼玉医科大学）

共同司会：渡邊衡一郎 教授（杏林大学）

登壇者：

- 松浦秀俊（Liva）：ピア主導の就労支援と Web 活動
- 木野内南（名古屋大学）：オンライン心理教育
- 鈴木映二 教授（東北医科薬科大学）：NPO「ノーチラス会」の取り組み

個人発表要旨（木野内南）

発表者は双極症の当事者であり、公認心理師および社会福祉士の資格を有している。また、名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学分野の博士課程に在籍し、精神疾患に関する研究を行っている。

また 2016 年より、双極症の当事者とそのご家族を対象としたオンライン集団心理教育を提供する NPO 法人の副理事長を務めている。心理教育とは、病気や治療、対処方法などを学ぶことで症状の改善を目指す心理社会的支援のひとつである。本プログラムは、Francesc Colom 先生と Eduard Vieta 先生による『双極性障害のための心理教育マニュアル』に基づいて構築されている。

日本では、双極症の当事者が集う機会が限られており、一部の病院ではデイケアプログラムの一環として心理教育を実施しているが、双極症に特化したプログラムは非常に少なく、地域によってはそのような支援が全く存在しない状況である。オンラインによる心理教育の提供は、地理的制約を超えて双極症に特化した集団心理教育に参加できる機会を提供するものである。

当法人は、双極症の当事者でもある薬剤師とともに設立された。スタッフは双極症の当事者に加え、精神疾患の経験を持つ作業療法士や臨床心理士などで構成されている。支援の質を保つため、参加者のフィードバックを収集・分析し、その成果を日本国内の学会において発表している。

キーワード

- 心理教育
- 集団治療
- ピアサポート
- 遠隔医療（テレヘルス）
- 当事者専門家（Expert by Experience）

学びの目標

1. 地域の精神保健サービスが限られている場合において、オンライン心理教育が双極症の当事者にとっていかにアクセスの向上に寄与するかを理解する。
2. 『双極性障害のための心理教育マニュアル』を用いた、エビデンスに基づいた集団心理教育プログラムの応用について学ぶ。
3. 心理教育プログラムの開発・実施・普及において、当事者専門家（Expert by Experience）が果たす役割を理解する。

利益相反の開示

- 開示の有無：あり
- 該当する企業と関係の種類：
- 三菱財団：助成金
- 東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業：助成金